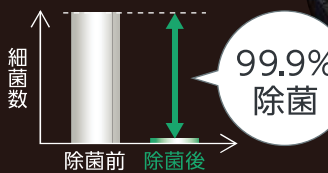


“キレイ”で安心をサポート。

99.9%^{*1}以上の除菌性能の UV除菌ユニットを搭載

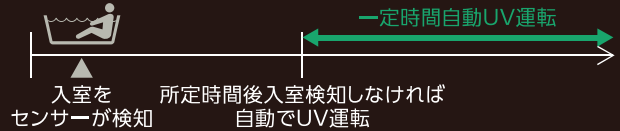
プレミアム

UV除菌ユニット (内部イメージ)



「UVキレイ入浴」

入室すると自動でセンサーが検知し、所定時間後、UV除菌ユニットで浴槽のお湯を除菌^{*2}します。



^{*}60分連続運転後の効果。入浴のタイミングにより十分な効果が得られないことがあります。

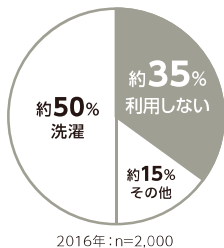
「残り湯UVキレイ」

入浴後の残り湯に、一定時間ずつ点灯と消灯を繰り返し、UV運転をする事で、菌の増殖を抑制^{*3}します。



お客様アンケート

Q.残り湯は何に利用しますか?

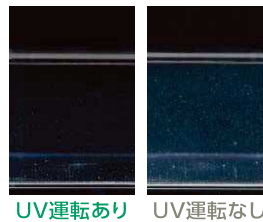


Q.利用しない理由は?

- 1位 雑菌が気になる
- 2位 面倒
- 3位 にごりが気になる

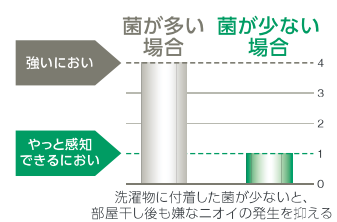
UV除菌でこの理由が解決されます!

① UVによる効果(濁度) 翌日の残り湯



入浴後、時間が経つと濁ってくるお湯の濁りを軽減します。^{*4}

② UVによる効果(ニオイ) 部屋干し8時間後



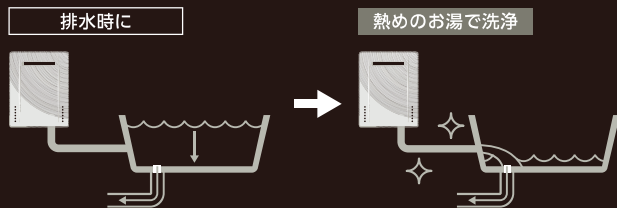
残り湯の菌が軽減されることで部屋干しなどによる洗濯物の嫌な臭いの発生を抑制します。^{*5}

熱洗浄配管クリーン^{*6}

プレミアム

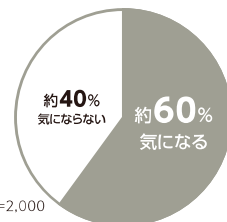
スタンダード(フルオート)

熱めのお湯でお風呂の配管内に残ったお湯を押し流すことで、従来よりも配管内の皮脂成分などの汚れが落としやすくなりました。



お客様アンケート

Q.追いだき配管の汚れは気になりますか?



熱洗浄配管クリーンの結果



^{*}人工皮脂汚れを使った実験です。すべての汚れが落とせるわけではありません。2016年10月ノーツ調べ

◆「UV除菌ユニット」は除菌するものであり、汚れを落とすものではありません。また全ての菌に作用するものではありません。

^{*}1:試験機関:衛生微生物研究センター 試験番号:28D-BT-019 試験方法:UV除菌ユニットを通過前後の試験液の菌数を測定。流量9.5L/min。試験結果:99.9%以上除菌(実使用での実証効果ではありません。使用環境により効果は異なります。) ^{*}2:試験機関:衛生微生物研究センター 試験番号:28D-BT-431 試験方法:180L、40℃の試験液が入った試験浴槽においてUV除菌ユニットを循環運転。流量9.5L/min。試験結果:60分後で99%以上抑制(実使用での実証結果ではありません。使用環境により効果は異なります。) ^{*}3:試験機関:衛生微生物研究センター 試験番号:28D-BT-352 試験方法:180L、40℃の試験液が入った試験浴槽において「残り湯UVキレイ」を実施。流量9.5L/min。試験結果:14時間後、運転などの比較で99%以上抑制(実使用での実証効果ではありません。使用環境により効果は異なります。) ^{*}4:試験機関:当社実験による試験条件:180L、4人入浴(使用環境により効果は異なります。) ^{*}5:試験機関:衛生微生物研究センター 試験番号:28D-BT-273 試験方法:におい原因菌が付着した試験布を6段階臭気強度表示法にて評価 試験結果:[1.5X10⁶(cfu/mL)の試験液に浸した布]:臭気強度4、[1.8X10⁴(cfu/mL)の試験液に浸した布]:臭気強度1(実使用での実証効果ではありません。全ての菌に効果があるわけではありません。菌の種類・対象物の素材により効果は異なります。) ^{*}6:試験機関:当社実験による 試験方法:人工皮脂汚れに発光試薬を混合し配管内に塗布。洗浄前後をブラックライトで照射(実使用での実証結果ではありません) 配管サイズ:φ10樹脂配管 洗浄水量:7L